

シンポジウム進行記録

主催者あいさつ

内閣府大臣官房審議官 殿川 一郎

司会 それでは、これより開会式を行います。

開会に当たり、主催者からご挨拶を申し上げます。

初めに、内閣府大臣官房審議官、殿川一郎がご挨拶を申し上げます。



殿川 第29回交通安全シンポジウムの開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙の中、多くの方々にご参加いただき厚く御礼を申し上げます。また、日頃から交通事故防止に向けてご尽力、ご指導、ご支援を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、本年の交通事故の状況でございますけれども、11月25日現在の交通事故による死者数、全国の数字でございますが、4,307人で、前年同期と比べて214人の減少となっております。本年の交通事故死者数は、このままの傾向で推移いたしますと、政府で定めております第8次交通安全基本計画におきまして年間の24時間死者数を5,500人以下にするという目標を2年前倒しで昨年達成いたしました。その目標を更に下回り、年間の死者数が5,000人以下になるということも視野に入ってきている状況でございます。

しかしながら、申し上げるまでもなく、未だに多くの方が交通事故で亡くなっているということは憂慮すべきでありまして、このため、皆様もご存知かと存じますけれども、本年1月、内閣総理大臣の談話において示された方針に基づき、今後10年を目途に更に交通事故死者数を半減させ2,500人以下とするという新たな政府目標がございます。この目標に向けて「世界一安全な道路交通の実現」ということをまた一つのスローガンにして取り組んでいくことに致しております。今後とも、この大目標に向けて皆様とともに官民挙げて努力していきたいと考えている次第でございます。

さて、今日の交通安全シンポジウムのテーマは「飲んだら、乗るまあ、乗らすまあ～飲酒運転の根絶はあなたから～」ということになっております。飲酒運転の全国的な状況でございますけれども、11月25日現在で飲酒運転による死亡事故件数は260件、これは前年同期と、わずかではありますけれども、12件の減少ということになっております。

平成18年8月に福岡市で発生しました飲酒運転追突転落事故によりまして、3人の若い命を奪う悲惨な事故がございましたけれども、社会的に大きな関心と呼び、その後、飲酒運転に対する罰則の強化、そのほか飲酒運転根絶に向けた取組み強化がなされております。しかしながら、最近におきましても、マスコミ等で頻繁に報道されておりますが、未だに飲酒運転による事故や飲酒運転の摘発は後を絶たないという状況でございます。

本日の交通安全シンポジウムにおきましては、医療や地域福祉、運輸業界、更には交通心理学会の最前線で活躍される方々と広島県民の皆さんにご参加いただき、飲酒運転の根絶を目指す方策について、活発なご議論をいただければありがたいと思っている次第でございます。

最後になりましたけれども、本シンポジウムの趣旨にご賛同いただき、開催の諸準備に取り組んでいただきました広島県や広島市を始めとする関係者の皆様方に心から敬意と謝意を表しまして、私の挨拶といたします。

平成21年11月26日

内閣府大臣官房審議官 殿川一郎
どうもありがとうございました。

広島県副知事 城納 一昭



城納 皆さんこんにちは。ご紹介をいただきました広島県副知事の城納でございます。シンポジウムの開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、多くの皆様にご参加いただきまして第29回交通安全シンポジウムが広島県で盛大に開催できますことを心から感謝申し上げます。開催にご尽力賜りました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、本県の交通安全対策につきましては、平成22年までに交通事故による年間の死者数を145人以下にすることや交通事故発生件数を1万8,000件以下にすることを目標として、これまで取組みを進めてきているところであります。関係者の皆様のお力添えもありまして、平成20年にはこの目標を達成することができましたが、今年に入りまして、10月末現在でありますけれども、死者数が117名、発生件数が1万4,188件と大変憂慮すべき状況となっております。また、飲酒運転に起因する事故も後を絶たないことから、飲酒運転根絶の取組みをより一層強化していかなければならないと考えているところであります。

こうした状況を踏まえまして、本日のシンポジウムでは、「飲酒運転の根絶は

あなたから」をテーマに、パネリストの皆様からご意見をいただくこととなっております。本シンポジウムの開催が飲酒運転根絶の取組みに大きく寄与するものと期待を寄せているところであります。

どうか皆様におかれましては、引き続き交通事故のない安全・安心な地域社会の実現に向けて、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、ご参加いただきました皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございます。

広島市長 秋葉 忠利



秋葉 第29回交通安全シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

毎年全国を巡回して開催されるシンポジウムは、広島市におきましては、昭和62年、1987年に続いて今回で2回目の開催となりました。内閣府のご配慮と関係者の皆様のご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

さて、広島市における今年の交通事故の発生状況を見ますと、事故件数、死者数及び負傷者数のすべてにおいて昨年同時期を下回っています。死者数は、県全体の死者数が昨年より増加している中、本市域では、過去最少であった平成19年、2007年の年間34人を更に下回るペースで推移しております。しかしながら、なお多くの尊い命が交通事故により奪われ、あるいは多くの方々が負傷されているという事実を厳粛に受け止め、今後とも交通事故のない社会を目指していかなければなりません。

平成18年、2006年の福岡市での事故をきっかけに、飲酒運転が大きな社会問題となりました。広島市では、それ以前から飲酒運転の問題を取り上げて、市の職員の飲酒運転は即懲戒免職という厳しい制度をつくって飲酒運転の根絶の先

駆けとなったと自負しております。それ以降、飲酒運転による事故は、市民意識の高まりや道路交通法改正による罰則強化の効果等により年々減少しているものの、未だに後を絶ちません。本市におきましても、今年10月末現在で44件の飲酒事故が起きており、残念ながらお一人の方が亡くなっておられます。

飲酒運転による事故は、ハンドルを握る前のドライバーの自覚と判断で防ぐことができるものですし、また、周囲の人々の注意によって防ぐことができるものでもあります。にもかかわらず飲酒運転をするということは、悪質な犯罪と考えるべきであると思います。

先ほどもご紹介がありましたけれども、飲酒運転根絶の機運を市民全体で盛り上げていくために、広島市では、「飲んだら、乗るまあ、乗らすまあ」を合い言葉に啓発活動に努めております。本日のテーマとしても採用していただいております。

今や飲酒運転は運転者だけの問題ではありません。家族や友人はもちろんのこと、お酒を出す人、お酒の席に居合わせた人、みんなで共通の認識を持って、自分たちのまちから飲酒運転をなくそうという機運をつくることが大切だと考えております。

この視点から広島市が作成しましたポスターには、「クルマの人は飲むまあでえ」、これは本人の自覚を促す言葉ですけれども、その言葉ではなく、「クルマの人にや飲ますまあでえ」という広島弁の標語を載せております。このポスターは多くの飲食店などに掲示していた

だき、広く浸透しております。

本日は、幅広い分野の専門家の方々から、飲酒運転根絶のために大変貴重なご意見を伺えると期待いたしております。その成果を糧として、今後、一層飲酒運転の根絶と交通事故そのものの大幅な削減に向けて交通安全対策を推進していきたいと考えております。

終わりに、本日のシンポジウム開催に当たりまして、ご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、ご来場の皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。